



第266號 (第 23 卷)

(昭和18年) 第 8 號

巻頭

隨筆

報告せざる観測は價值乏し、等々

Observation without Reporting is Incomplete.

山 本 一 清 *Issei Yamamoto.*

去る六月25日に國際天文同盟の第 941 回報 (1943年三月16日附け) がコペンハーゲンから、ルンドを経て到着した。この中に、かの艦座新星をエリントン天文臺のクラスト氏が發見したことが報ぜられてゐる。この星の獨立發見の通告も此れが最後かと思はれるが、今までに吾人が内外から入手した獨立發見者は合計15名で、その一覽表は下の如くである。

氏 名	(居所)	發見日時 (日本時)	光度	
瀧 山 昌 夫	(東京)	1942年十一月8日3~4時	[1.5	天文月報36.3.
B. H. Dawson	(アルゼンチン國ラプラタ)	9日18時(?)	1.	IAUC 926.
R. Jonckheere	(佛國 マルセイユ)	10日12時30分	1.	" 927.
A. G. C. Crust	(新西蘭エリントン)	10日19時30分	1.05	" 941.
祖父江 久 仁 子	(東京)	11日3時	1.	東京回報 194.
黒 岩 五 郎	(兵庫縣)	11日4時40分	1.	" "
中 原 千 秋	(長崎市)	11日5時10分	1.5	私信
金 森 丁 壽	(長野縣)	11日5時(?)		東京回報 194.
P. Finsler	(瑞西國チウリヒ)	11日15時(?)	2.	IAUC 925.
N. R. Dickie	(新西蘭ゴア)	11日20時0分	1.	" 941.
W. W. Morgan	(米國ヤルキス)	11日22時(?)	0.5	HAC 638.
A. D. Maxwell	(米國アンナボア)	11日22時(?)	1.0	" 639.
太 田 彬	(東京)	12日5時1分		東京回報 194.
蘆 部 良 助	(東京)	12日4時半	2.	天文月報36.2.
吉 田 正	(茨城縣)	13日4時18分	0.0	" "

この15人の發見者のうち、中原氏は昭和14年以來、連日にわたつて、新星搜索のため努力された結果である點に鑑み、吾々は去る六月27日の本會總會に於い

て表彰したのであるが、しかし、上記の一覽表に據ると、中原氏よりも、祖父江女史よりも、他の二三の外國人よりも、瀨山昌夫氏の發見が斷然として早いことが明らかであり、尙、光度曲線から判斷しても、瀧山氏の發見はほぼ正確であることが肯かれる。只、これが學術上の“發見者”として認められ難い理由は、同氏が其の發見を十一月18日に至るまで、誰にも告げなかつたことである。

天文觀測上に於いては、彗星や新星の如き現象を發見しても、それを他人に告げなければ、他人は之れを觀測研究する機會が與へられず、従つて、現象の重要性に對して學界人士が即應し得ないといふことは頗る遺憾な事實である。従つて、從來とても、發見の價值ある榮譽は、之れを最初に公表した人に與へられるのが通例である。

彗星の發見される場合などにも、發見後、その前時日に遡つて、ハーブードやゾンネベルグの天文臺などの索天カメラに、幾日も以前から其の彗星の像が撮影されてゐることが判明する場合は屢々あるけれど、しかし、決してハーブードやゾンネベルグの寫眞管理者に其の發見の名誉は與へられないで、最初の公表者に其れが與へられるのが通例である。

又、かの冥王星の場合でも、1914年以來、ハイデルベルグや、キルソン山やその他二三の天文臺で撮影された寫眞板上に此の星の像は認められるけれど、しかし、發見者としては、1930年に其の發見を公表したクライド・トンボ氏が榮譽を獲たのである。

こんな事情からも明らかな如く、近代の學術研究は、其の成果が、發表や報告によつて學界のものとなるのであることを、人々はよく知つて置かねばならない。昔の（殊に、東洋流の）學問に於いては、學術が甚だ個人的で、非社會的であつたがために、公表や報告などといふ努力をする必要は今日ほど甚だしく無かつたのであつて、却つて、發表は賣名であるかの如く曲解されるため、それをわざと避け、學者は世間と沒交渉の生活をするのが“學者らしい”などと言はれたことさへあつたが、しかし、今日は非常に事情が違ふのであつて、（單なる賣名や虚名は、今も昔も唾棄すべき所爲であること勿論であるけれど）學術の成果を一刻も早く世に公表して、學界一般の進歩のために貢獻することにしなければならない。特に、天文學界に於いて、或る現象を個人が獨占して、他の觀測者に知らせないことは、學術の進歩發展を妨げることになるのである。この事情をよく辨へて、研究者は偏見に囚はれず、正しい良心の判斷によつて、常に善處しなければならない。

今次の大戦は、今までの度々の戦争と違つて、天文學界にも多くの特殊な刺激を與へ、又、一般社會の戦時態勢そのもののの中に、天文學が種々の形を以つ

て活躍してゐる様子が伺はれるのは注意すべきことである。戦陣にある敵も味方も、その戦術の中に、廣く深く天文學術を應用してゐることは驚くばかりであつて、實に、今日は、天體に據らなければ、戦闘が實施され得ない状態であることは、特に太平洋を舞臺とする“大東亞戦争”に於いて著しい。この事實は、天文學徒も、アマチュアも、教育者も、政治家も、一般社會人士も、よく知つて居なければならない。

資材の上から言つても、大小の望遠鏡の類や、クロノメータなど、又、數理計算器具や、學術研究文獻などに至るまで、皆、今日の特殊な時局の影響によつて、或る種の動きを見せてゐる。東西各地のプラネタリウムにも、戦時色が溢れ、特殊な研究者のあわただしい出入が認められる。詳細なことは、こゝに記述することが出来ないけれど、讀者は此の短文の行間に或る空氣を感じ得られんことを望む。——すべては戦力増強のために捧げなければならぬ。しかるに、この戦時に、曆を改めて、世間の生活を混亂に陥らしめようと企ててゐる輩が存在してゐる。これ等は、世間の迷惑を顧みず、又、現行のグレゴリオ曆の著しい長所から眼をそむけて、必要もなき些細な變革を計畫しつゝあるやうであるが、およそ改曆についての吾人の態度や主張は既に度々本誌上に述べたところであるから、讀者は決して迷はされざるやうに注意して頂きたい。（新しい讀者諸君は、改めて天界第 225 號の拙文を熟讀せられよ。）

瀧山氏の鱧座新星發見事情

〔瀧山氏の新星發見が重大な事實であることは、上記の主幹者の卷頭文にある通りである。編輯部では、七月初め、早速、同氏に手紙を送つて、發見の當時の詳細な事情を報告されるやうに依頼した。すると、同氏から下の如き文が主幹あてに送附された。これを讀んで見ると、同氏が栗原氏から南方の星座案内を書くことを依頼されてゐたといふのが非常に重要な點であると思はれる。——編輯〕

山本先生、

（前略） 新星のこと思ひ出してみますと、大體次のやうな様子です。

昨年十一月10日頃、丁度、胃腸カタルがひどくなつて、5—6日學校を休んで寝てゐた時でした。7日からどうも身體の調子がわるくなつて、8日から休んだその朝、三時から四時頃だつたと思ひます。下痢のため便所へ起きた時、腹痛を我慢して、便所の窓から南の空をフト眺めたのです。丁度その時は「星の會」の栗原正雄君から、大犬座の星座案内の原稿を書いてもらいたいとのまれてゐましたので、何となく氣にかゝつて、大犬座あたりをみました。空はよく晴れてゐて、とても寒かつたのです。オリオン座はずつと西へかたむいてしまつ